



キャンペーン について

核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)は、世界中の非政府組織による国際的な連合であり、その使命は明確です。すなわち、すべての国が核兵器禁止条約(TPNW)に参加し、その内容を完全に実施するよう働きかけることです。

このキャンペーンは、2007年にオーストラリアのメルボルンで設立されました。その背景には、人道的観点から対人地雷の禁止を実現した運動の成功があります。現在、ICANの本部はスイスのジュネーブに置かれています。

設立以来、ICANは、核兵器に対する強い市民の反対の広がりを築くことに力を注いできました。その一環として、広島や長崎の被爆者、そして核実験によって被害を受けた人々の声を広く伝えてきました。

また、赤十字国際委員会や国連事務局、志を同じくする各国政府と連携しながら、啓発イベントの開催、先駆的な調査研究の発表、世界的なアクションを起こす日の設定や実施などに取り組んできました。さらに、核廃絶の必要性について、各国の意思決定に関わる人々に直接働きかけを行ってきました。

ノーベル平和賞

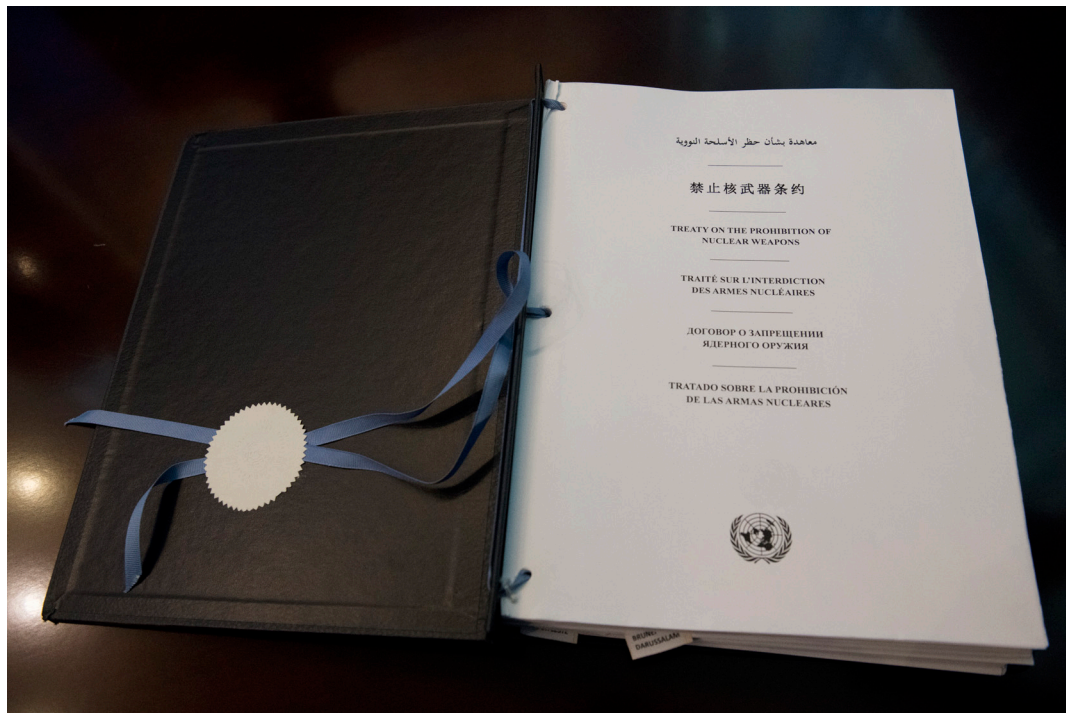
2017年、ICANは、「核兵器の使用がもたらす破滅的な人道上の結末への注目を集め、核兵器を条約によって禁止するための革新的な努力をしてきたこと」が評価され、ノーベル平和賞を受賞しました。

この受賞は、核時代のはじまり以来、世界各地で声を上げ続けてきた無数の活動家や市民のたゆまぬ努力への賛辞でもありません。彼らは、核兵器に反対し、その恒久的な廃絶を訴え続けてきました。

これは遠い未来の理想ではなく、いま求められている切実な課題です。これからの世代が、この深刻な脅威から解放された世界で成長していくことが求められています。

「私たちは、ICANがこの1年間で、核兵器のない世界の実現に向けた取り組みに、新たな方向性と力強さをもたらしたと確信しています。」

— ノルウェー・ノーベル委員会(2017年)



TPNWの原本。出典:ICAN

サーロー節子

13歳のとき、サーロー節子さんは、広島に投下された原子爆弾の爆風によって意識を失いました。倒壊した建物のがれきの中に閉じ込められましたが、やがて自力で這い出ることができました。

「その建物にいたクラスメートのほとんどが、生きたまま焼き殺されました」と彼女は振り返ります。「目の前に広がっていたのは、言葉では言い尽くせない、想像を絶する破壊でした…焼けた人間の肉の強烈な臭いが、あたり一面に立ち込めていました。」

核兵器による戦争の恐ろしさを今に伝える証言者として、サーローさんは2017年、ICANに授与されたノーベル平和賞を共同で受け取りました。「核兵器はいつどんなときも、私たちが愛する全ての人々、いとおしく思う全てを危険にさらしています」と彼女は警告しています。

「私たちはこの愚行をこれ以上許してはなりません。」

彼女は各国の指導者に対し、最近採択された核兵器禁止条約に署名するよう訴えました。「これを核兵器の終わりの始まりにしようではありませんか」「この条約に参加してください。核による滅亡の脅威を永久に無くしてください」と彼女は語りました。



2017年、ノルウェーで行われたノーベル平和賞授賞式に出席するサーロー節子さん。
出典：ジョー・ストラウベ

「核兵器を禁止し、廃絶するためには、世界規模での断固たる運動が必要です。この世代のうちにそれを実現するためには、世論のうねりを大きく高めて発展させていかなければなりません。それによってこそ、核兵器の完全な廃絶という最終目標へと確実に導く、巨大で勢いのある、抗いがたい力となるはずです。そうした力がなければ、どれほど優れた指導者であっても、その道のりの途中で立ち止まってしまうでしょう。」

— ビル・ウィリアムズ (ICAN共同創設者、2006年)

ジュネーブでのICANの活動の様子。出典：オード・カティメル

